

第3章 探究的な学習を充実させる単元展開と評価の実際

1 単元「こん虫パラダイス」(第3学年) 環境 9月~12月 全30時間

- 「生きもの大すき3年レンジャー、しぜんいっぱい大作戦」を学習課題とし、生きものが
- 住みやすい学校づくりを通して、環境を見つめ、生きものとの共生を考える単元

<p>学校で設定している 付けたい力</p>	<p>地域・学校の特徴</p>	<p>思い・願い</p>
	<p>重点目標：生き方を学ぶ環境教育の推進 豊かな学びリーディングスクール(環境教育) 指定。今年度エコ改修を実施した。</p>	<p>ビオトープ「あかしやの森」「いのちの庭」という素晴らしいフィールドで自然を体感してほしい。自然を守り、いのちを大切にしようという気持ちを育てたい。</p>

■ 単元構想 ■ □ ■

	学習過程	探究の過程	学習活動	主な言語活動と思考	主な他教科等との関連
<p>① 事象と出会う 学校の生きもの・自然環境と出会う</p> <p>子どもたちは、今まで身近すぎて気付かなかった生きもの多さに驚くとともに、自然環境の素晴らしさに感動した。</p>	① 事象と出会う	<p>課題の設定</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p> <p>情報の収集</p>	<p>学校には、どこに、どのような生きものがいるのだろう</p> <p>セミの抜けがらはどこにあったのかな 一週間、生きもの探しをしよう</p> <p>いのちの庭に込められた思いを知ろう 校長先生から話を聞こう 自然のまま いのち みんな大事</p>	<p>観察</p> <p>マップ比較する 関連付ける メモ</p>	<p>観察のポイント(理科)</p> <p>地図を表す 地図を読む(社会)</p>
	② 学習課題を決める ③ 予想・仮説を立てる ④ 学習計画を立てる	<p>課題の設定</p>	<p>生きもの大すき3年レンジャー しぜんいっぱい大作戦をせいこうさせよう!</p> <p>どんな生きものが増えたらいいだろう 学習計画を立てよう</p> <p>どのような活動をしたらいいかな どのような力を使えばいいかな</p>	<p>観察</p>	<p>学習課題のつくり方</p> <p>学習計画の立て方</p>
<p>①' 事象と出会う 生きもの生態と出会う</p> <p>生きものにはそれぞれ住みやすい環境があることを知る。</p>	⑤ 調査する	<p>課題の設定</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p>	<p>ふえたらいいと思う生きもの調べる ・観察する ・図鑑で調べる ・探す ・生きものはかせに聞く</p> <p>集めた情報の中から作戦を成功させるために大切なことを取り出そう</p>	<p>観察</p> <p>図鑑を使って調べる</p>	<p>観察のポイント(理科)</p> <p>図鑑の使い方(国語)</p>
	⑥ 課題を解決する	<p>課題の設定</p> <p>情報の収集</p>	<p>生きものをふやすための行動をしよう ・すみかを作ろう ・食べ物をふやそう そのために調べよう</p> <p>2年生や地域の人、おうちの人に伝えよう ポスターセッションをしよう</p> <p>ポスターを作ろう 発表の練習をしよう</p>	<p>分類</p> <p>KJ法的な手法※</p> <p>観察</p> <p>図鑑を使って調べる</p>	<p>観察のポイント(理科)</p> <p>図鑑の使い方(国語)</p>
<p>①'' 事象と出会う 生きもの生態系と出会う</p> <p>生きもの同士のつながりに気付く。</p>	⑦ 調査したことを報告する	<p>まとめ・表現</p>	<p>みんなの考えを合わせてしぜんいっぱい大作戦を成功させよう</p> <p>生きものは全てつながっている。自然ともつながっている。自然をいっぱいにするためには、全ての生きものを大切にしなければならないのだ。</p>	<p>ポスターを表す 発表する 聞く・質問する</p>	<p>ポスターのかき方 発表名人10か条(国語)</p>
	⑧ 課題を解決する	<p>整理・分析</p>	<p>自分ができていることをしていこう どのような力が付いたかな これから伸ばしたい力は何か</p>	<p>※KJ法的な手法とは、「整理・分類」をするための一つの方法</p>	

■ 単元の実際の展開 ■ □ ■

① 事象と出会う

○セミの抜け殻がどこにあったのかを予想する

- ・なぜそこにあったと思うのか、根拠を明らかにして予想する。

あかしの森
よくセミの鳴き声を聞くから。

果樹園
前に果樹園でセミを見たから。

- ・「生きもの発見 Map」にセミのシールを貼っていく。

学校のいろいろな場所にセミの抜け殻があるのだな。

ほかにどのような生きものがいるのかな。

○一週間生きもの探しをして、見つけた生きもののシールを Map に貼る

- ・完成した Map を見て、「生きものは学校のどの場所に多いのか」「どのような生きものがいるのか」について交流する。

あかしの森・いのちの庭
に生きものが多い。

バッタやスズムシ、コオロギが多い。

どうしてあかしの森、いのちの庭に生きものが多いのだろう。



○校長先生から話を聞く

- ・「どうしてあかしの森・いのちの庭がつけられたのか」「地域の人・保護者・教職員の願い」「つくる時の苦労」について話を聞く。

なぜ「いのちの庭」と名付けられたかがよくわかった。

いのちの庭にもっと生きものをふやしていきたい。



② 学習課題を決める

○学習課題を決める

- ・「○○レンジャー、□□□大作戦！」と書いたカードを基に、○○と□□□に入る言葉を考える。

*自分たちで考えた学習課題であるという意識がもてるようにした。

*3年生という発達段階に合わせて、めあてが常に意識できるように合言葉になる学習課題とした。

生きもの大すき3年レンジャー、しぜんいっぱい大作戦

③ 予想・仮説を立てる

○どんな生きものが増えたらよいか、どうすれば増えるかを考える

- ・今までの体験や知識、理科の学習を基に、「自然のまま」をキーワードに、実際に「あかしの森」「いのちの庭」に行ってみる。

④ 学習計画を立てる

○課題を解決するために、どのような活動をすればよいか、どのような力を使えばよいかを考える

*初めて学習計画を立てるので、下の図のワークシートを基に学習を進める。

	活動	すること	つきたい力
1	生きものさがしをする。 いのちの庭の話を聞く。	・一週間、生きものをさがす。 (何が、どこにいたか) ・地図にシールをはる。 ・校長先生に話を聞く。	・地図を見る力(社会) ・かんさつする力(理科) ・話を聞く力
	学習かだいを考える。 生きものを考える。 学習計画を立てる。		
2	いたらいいなと思う生きものについて調べる。	○何を調べるか。 ・住みやすい場所・食べ物 ・動き・しゅるい	・計算の力(算数) ・図かんの使い方(国語) ・かんさつのしかた(理科)

※どのような力を使えばよいかを考えるのは初めてだったため、例を挙げて考えやすいようにした。

⑤ 調査する

○自分が増えたらいいなと思う生きものについて調べる

3年生なので、初めは全員が「住んでいる場所」について調べることにした。また、ワークシートにも下の図のような調べ方の手引きとなる事項を示しておき、今

住みやすい場所って？
 ○どのようなところにいるかな？
 草の多いところ、花の咲いているところ、
 木のあるところ、水のあるところ、地面の
 やわらかいところ・・・

調べてみよう！！
 ・自分でかんさつしよう
 ・自分でさがしに行こう
 ・生きものはかせに聞いてみよう
 (すが先生・さいとう先生)
 ・図かんで調べてみよう

※開いたり図かんで調べたりしてわかったことは、自分でもたしかめておくといいね。

考えてみよう！！
 ○どうしてそのようなところにいるのかな？

後の追究活動が自分たちでスムーズに行えるようにした。



観察する・探す・生きもの博士に聞く・図鑑で調べる

○同じ生きものを調べている友達と情報を交流する



* 追究活動の中で、友だちと交流する時間を設定することで、知識が広がるようにした。

* 自分が収集した情報をウェビングマップにカテゴリごとに整理しておいてから友だちと情報を交流することで、共通点と相違点を見つけやすくなった。

情報を交換して、自分が知らないこともわかった。次の時間に調べてみたい。

○○さんは家でも調べていてすごいと思った。今度はどこに多いか調べたい。

⑥ 課題を解決する

①' 事象と出会う

②' 学習課題を決める

⑤' 調査する

○収集した情報の中から、増やすために必要な情報を取り出し、作戦を考え、実行する

* 収集した情報の中から実際に必要な情報を取り出し、分析することで、新たな課題が生まれ、追究活動が繰り返され、学びが深まるようにした。

* ワークシートに活動のプロセスを示すことで、見通しをもって主体的に学習を進められるようにした。

オオカマキリを増やすために、食べ物であるクモを増やそう。そのためにクモはどんなところにいるのか調べよう。

11月15日 木曜日

3年生 パラダイス

生きもの大すき 3年 レンジャー

しぜん いっぱい 大作戦!

今まで調べてきたことから、**オオカマキリ**をいっばいにするための作戦を考えよう。

① すばり、ポイント② **場所**と**食べ物**

カードに書いたことの中から大事なことをぬきだそう。

オオカマキリは、小がたの虫、クモ(アケボノクモなど)、ハチ(ミツバチなど)、カエル(マガエルなど)などを食べます。
肉食で、草履の虫が多くて高い所に生息していることが

だから

いっばいにするための作戦

えび(クモなど)を、くやし、すみを作て、カマキリをくやし対作戦

作戦をせしうにするために、今日やること

カエル、ハチやクモを さがす

(クモ)

調べたこと

- ・てっぽうの近く 1びき
- ・いのちのいわ 11びき
- ・大がたのクモがとくに多くいた。
- ・高い所にすをつくっていた。

ダンゴムシは湿った暗い場所に住んでいるから、増やすためには、湿った暗い場所をつくればいい。落ち葉を集めて、水をかけて湿らせておこう。

⑦ 調査したことを報告する

○ポスターセッションで交流する



・モデルのポスターを使って、ポスター作りのポイントをまとめる

内容	表現の工夫
① 題名	・文字の大きさ・太さ
② 学年・組・名前	・文字の色・形
③ 調べた理由	・かんたんな文・言葉
④ 調べたこと	・絵・図
⑤ そこから考えたこと(いっばいにするためにわかったこと)	・表にしたり囲んだり
⑥ 自分のしようと思うこと(作戦)	・見出し

- まとめたポイントを基に、一人一人がポスターを作成する

項目ごとに紙に書いて台紙に貼っていくようにしたことで、

- ✦ 大きな紙に直接かくよりも、負担が少ない
- ✦ 細かなステップで作成できる
- ✦ 動かせるので、レイアウトを工夫できる などの効果があった。



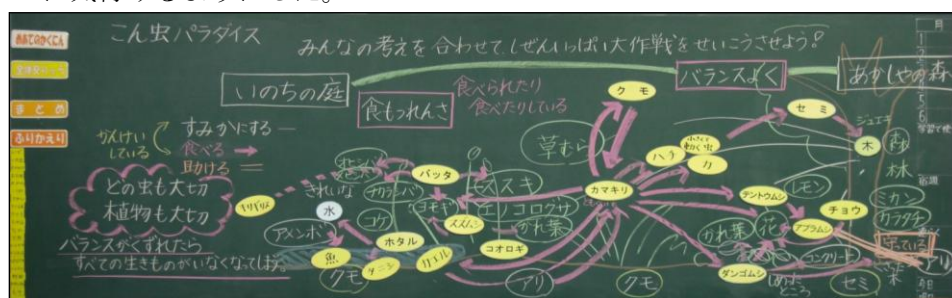
- 国語科の学習で作成した「発表名人 10 か条」を基に発表の練習をする
- ポスターセッションをする

体育館を会場に、ABC の 3 グループに分かれ、A が発表しているときは BC グループは友だちの発表を聞いた。このとき、自分の発表と比べて聞くようにした。



①'事象と出会う

- 「自然いっぱい大作戦」を成功させるために大切なことについて全体で交流する
生きもののすみか食べ物について出し合う中で、自分の調べた生きものについてだけではなく、ポスターセッションで友だちから聞いたことやこれまでもっていた知識なども合わせて出し合うことができた。
*子どもたちの発言を構造的に板書していくことで、生きもの同士の関わりに気付けるようにした。



②'学習課題を決める

⑧学習を振り返る

- 「内容」と「知識・技能」の両面から振り返る

- 「自然いっぱい大作戦を成功させるために大切なこと」について記述する

ぼくははじめ、自分がふやしたい虫だけふやしたらいいと思っていただけで、1ぴき（種類）の虫だけをふやさずに、バランスよく虫も植物もふやせばいいと思いました。わけは、1ぴき（種類）だけふやせば、その虫だけがたくさんになって、食べるものがあんまりなくなってしまうからです。だから、ぼくは、バランスよく虫や植物をふやすためには、生きものをそまっつにしている人がいたら注意して自分も生きものを大切にしていきたいです。

交流する中で、

- ✦ 1種類の生きものを大切にするためには、全ての生きものを大切にしなければならないこと
- ✦ 生きものを大切にするためには、植物や水といった周りの自然環境も大切にしなければならないこと

に気付き、自分ができることから始めていこうと考えるようになった。

- 「つかいたい力」が活用できたか、どのような力が身に付いたか、更に伸ばしたい力は何かについて振り返る（自己評価）

■ 学年の系統について ■□■

S小学校では、第3学年から第6学年まで系統的に「環境」の学習を行っています。第3学年ではこん虫などの生きもの、第4学年では植物、第5学年では自然とわたしたちの生活、第6学年では環境エネルギーについて系統的な取組が行われています。

この学習は、第4学年の「グリーンUPプロジェクト」へとつながっていきます。虫をはじめとする生きものが植物と関わっていることを学んだ子どもたちは、更に第4学年で植物について詳しく学びます。今回学んだ生きものを中心とした自然界のつながりには、「水」と「土」しか登場しませんでした。しかし、植物を中心としたつながりを学ぶことで、「太陽」や「空気」「風」といった自然界とのつながりも明らかになるでしょう。これが、系統的に学ぶよさであるといえます。

また、付けたい力については、学校独自で「付けたい力」を系統的に設定して学習を進めていること、「まとめ・表現」の過程にポスターセッションを系統的に設定していることで、子どもたちに段階的に、確実に力が付いていきます。

■ 成果と課題 ■□■

○八つの学習過程を設定する

八つの学習過程を設定することで、細かなステップで単元を展開することができました。「学校にはどこに、どのような生きものがあるのだろう」という小さな疑問が、活動を重ねるうちに単元を貫く学習課題「生きもの大すき3年レンジャー、しぜんいっぱい大作戦」となりました。そして、課題を解決するため「増えたらいいなと思う生きものについて調べよう」「生きものを増やすための作戦を実行しよう」と、探究の過程が繰り返されるごとに新たな課題が生まれ、探究的な学習が深まりました。

○子ども自身が意識する

子どもたちは、学習計画を自分で立てました。このことで、学習の見通しがもて、主体的に活動することができました。また、各教科等で身に付けた力を基に一つ一つの活動においてどのような力を使えばよいのかを子ども自身が考えました。そして、「⑧学習を振り返る」で、その力が活用できたか、この単元でどのような力が身に付いたか、更に伸ばしたい力は何かについても考えました。このことで、子どもは各教科等で身に付けた力が「総合」に発展させられること、「総合」で身に付けた力を各教科等に生かせることを実感することができました。子どもが学びの有用性を実感することで、実生活、実社会で生きて働く力となると考えます。

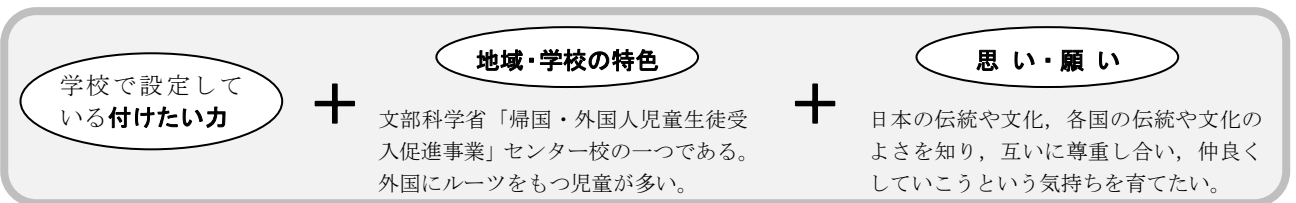
○体験活動と言語活動

この単元では「自然にかかわる体験活動」を多く設定しました。子どもたちは、何度も何度も「あかしやの森」「いのちの庭」に出かけて行きました。残念ながら急に気温が下がり生きものたちが姿を見せなくなり、当初計画していた生きもの自体の観察は十分行えなくなってしまいました。このことから、今後の課題として、単元を扱う時期を再検討することがあげられます。「環境」の内容を扱う場合、自然が相手なので多少のリスクは仕方ありませんが、できるだけよい条件のもとで活動できるのが望ましいです。ただ、そのような状況の中で、なぜ生きものが少ないのかを考えたり、図鑑等を活用して情報を収集したことを確かめにフィールドに出かけていたりしたことは意義のあることでした。指導者の臨機応変な対応が大切だと感じました。


また、体験活動の後、言語活動を位置付けたり、協働的な学びの場面を設定して話し合い活動を行ったりしたことにより、考えが広がったり深まったりして、探究的な学習が充実しました。

2 単元「アンニョンハセヨ! 韓国・朝鮮」(第3学年) 国際理解 10月~12月 全18時間

- 「韓国・朝鮮の『みりょく』をさがろう」を学習課題とし、子どもたちとつながりの深い
- 韓国・朝鮮のよさを理解し、多文化共生を考える単元



■ 単元構想 ■ □ ■

	学習活動	主な言語活動と思考
<p>体験活動① 明るく・楽しく、韓国・朝鮮の文化と出会う 見る・音楽を聴く・教えてもらう活動</p> 	<p>韓国・朝鮮について知っていることを出し合おう</p> <p>韓国・朝鮮の音楽を聴こう</p> <p>韓国・朝鮮の音楽は、はく力があるな。きれいな衣装だな。日本にもよく似た形の楽器があるよ。自分でも演奏してみたいな。</p> <p>韓国・朝鮮のことをもっと知りたいな。</p> <p>もっと 韓国・朝鮮のことを知ろう</p> <p>韓国・朝鮮の衣装について知ろう 韓国・朝鮮の暮らしについて知ろう</p> <p>きれい おもしろそう やってみたい にている ちがう</p>	<p>ウェビングマップ</p> <p>メモ 感想を書く キーワードに整理する 分類 ウェビングマップ</p> <p>メモ 比較 感想を書く ウェビングマップ</p>
<p>体験活動② もっと韓国・朝鮮のことを知る 一緒にやってみる・質問に答えてもらう活動</p>	<p>韓国・朝鮮には、すばらしいものがたくさんあるのだね。</p> <p>韓国・朝鮮の「みりょく」をさがろう</p> <p>見 て ・ 聞いて ・ やってみて</p> <p>韓国・朝鮮の食べ物「チヂミ」を作ろう</p> <p>言葉・昔話 服装 遊び 音楽</p> <p>ハングル文字を駆でみたよ。日本の着物のようにはなやかだね。日本にも似た遊びがあるよ。色々な音があって楽しいな。</p> <p>たくさんの「みりょく」が見つかったね。</p> <p>みつけた「みりょく」を周りの人に伝えたいな。</p> <p>みつけた「みりょく」を伝えよう</p> <p>パンフレットの交流会をしよう マダンを開こう</p> <p>みんなに伝えることができよかったな。これから、韓国・朝鮮の人と仲良くしたいな。ほかの国の「みりょく」も知りたいな。もっと韓国・朝鮮の「みりょく」が見つかったよ。</p>	<p>ウェビングマップ 分類</p> <p>感想を書く 関連付ける ウェビングマップ 感想を書く 関連付ける ウェビングマップ</p> <p>パンフレットに表す キャッチコピー</p> <p>発表する 聞く・質問する 感想を言う</p>

* 三つの体験を意図的に重ねることで(受身の活動から、より主体的に関わる活動へ)、韓国・朝鮮との関わりが深まっていきます。

■ 多様な体験活動 ■□■

韓国・朝鮮の文化に親しむために、様々な体験を設定しました。



チャンゴを演奏する



ペンイ（コマ）を回す



韓国・朝鮮の昔話を読む



チマチョゴリを着る



ハングル文字を書く

これらの活動のほかにも、ケンガリやブなどの楽器や、ユンノリ（すごろく）などの遊びも体験しました。また、学習の最後には、「マダン」と称してそれぞれのグループで体験したことをみんなで楽しみました。

■ 適切な言語活動 ■□■

〈協働的な学び〉



〈パーソナルワーク〉

体験してわかったこと・考えたことを付箋に書く。



〈グループワーク〉

それぞれの考えを交流する。ウェビングマップの手法を用いて、付箋を分類して考える。



〈クラスワーク〉

グループでまとめた考えを、全体で発表する。

〈ウェビングマップ〉



ウェビングマップは、自分の考えを広げるときによくつかわれる手法です。このウェビングマップを使って、観察・鑑賞などの体験活動で集めた情報を付箋に書き出し、グループや学級全体で分類することにしました。このウェビングマップの手法を用いた言語活動をこの単元の話合いの場面で繰り返し使うことにしました。

〈パンフレット〉

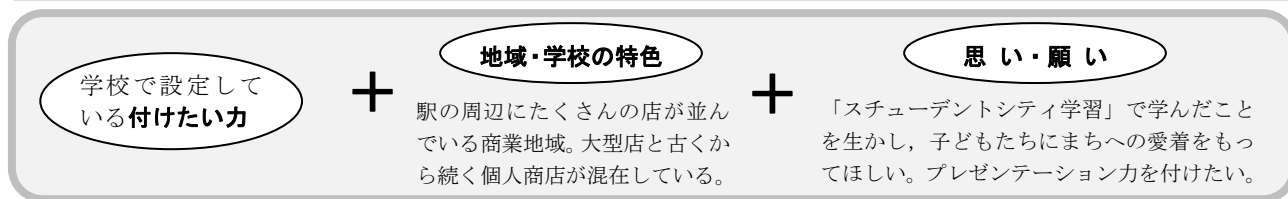


社会科の「商店のはたらき」の学習で「スーパーのヒミツ」パンフレットを作った子どもたちは、並行して、学んだ「韓国・朝鮮のみりよく」をパンフレットに表し、パンフレット交流会を開きました。



3 単元「西院企画室」(第5学年) 生き方探究 9月~2月 全50時間

- 「よりよい西院のまちをつくろう」をテーマにし、子どもたちがまちの店を調査し、よりよい店にするための企画を考える単元



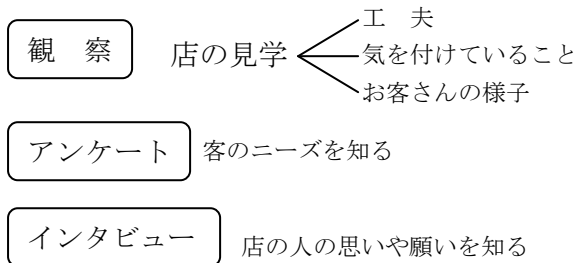
■ 単元構想 ■□■

	学習活動	主な言語活動と思考
<p>スチューデントシティ学習をきっかけとして、単元を構想した例</p> <p>スチューデントシティ学習の ○ねらい○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に関わる社会のしくみや経済の働きを理解させる ・社会的・職業的自立をめざし、自らの生き方を考える力を育成する 	<p style="text-align: center;">学 習 活 動</p> <p style="text-align: center;">→ スチューデントシティ学習</p> <p style="text-align: center;">よりよい西院のまちをつくろう</p> <p style="text-align: center;">西院のまちのよいところを交流しよう おすすめの店を紹介しよう</p> <p style="text-align: center;">友達のおすすめの店をのぞいてみたいな</p> <p style="text-align: center;">調査活動を開始しよう!</p> <p style="text-align: center;">地域・おうちの人に お店のの人に</p> <p style="text-align: center;">アンケートをとろう インタビューをしよう 見学に行こう</p> <p style="text-align: center;">楽しい 買しやすい</p> <p style="text-align: center;">人気がある 明るい</p> <p style="text-align: center;">安い おいしい 種類が多い 特別な品 親切 笑顔</p> <p style="text-align: center;">昔から</p> <p style="text-align: center;">より人気のお店にするための企画を考えよう!</p> <p style="text-align: center;">イベント チラシ・ポスター 商品開発 ディスプレイ</p> <p style="text-align: center;">他のお店を調べる お客さんにきく お店の様子を調べる</p> <p style="text-align: center;">企画会議を開こう お店の人から意見をもらおう</p> <p style="text-align: center;">中間報告会を開こう</p> <p style="text-align: center;">企画書を提出しよう</p> <p style="text-align: center;">喜んでもらえてよかったな。 お店のことをちゃんと知って企画を考えることが大切だね。 お客さんを大切に思う気持ちが大事なんだね。</p> <p style="text-align: center;">私たちの考えた企画をみんなに伝えよう!</p> <p style="text-align: center;">報告会の準備をしよう</p> <p style="text-align: center;">報告会をしよう</p> <p style="text-align: center;">学習の振り返りをしよう</p>	<p>主な言語活動と思考</p> <p>☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察・調査・質問 ・メモ・アンケート ・インタビュー ・感想を書く ○整理・交流 ・グラフ・表・マップ 分類・比較・関連 <p>☆ (くり返し)</p> <p>KJ 法的な手法</p> <p>KJ 法的な手法</p> <p>★</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察・調査・質問 ・メモ・インターネット ・アンケート・インタビュー ・チラシ・ポスター ・パンフレット ○整理・交流 ・表・ベン図・座標軸 ・企画会議 ○記録・説明 ・企画書 比較・関連・総合・類推 <p>★ (くり返し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発表・説明 ・プレゼンテーション ・ポスター・新聞 ○記録・説明 ・企画書 <ul style="list-style-type: none"> ○発表・説明 ・プレゼンテーション ・ポスター・新聞 ○観察・調査 ・メモ・インタビュー 関連・総合・類推

■ 企画書を作成し、店に提案するための一連の言語活動 ■□■

店の企画を考え、提案するためには、企画書を作成する必要があります。そこで、企画書を作成し、店に提案するという一連の言語活動について紹介します。

- ①全員で課題を確認する。
- ②現状をとらえる。(情報の収集→整理)

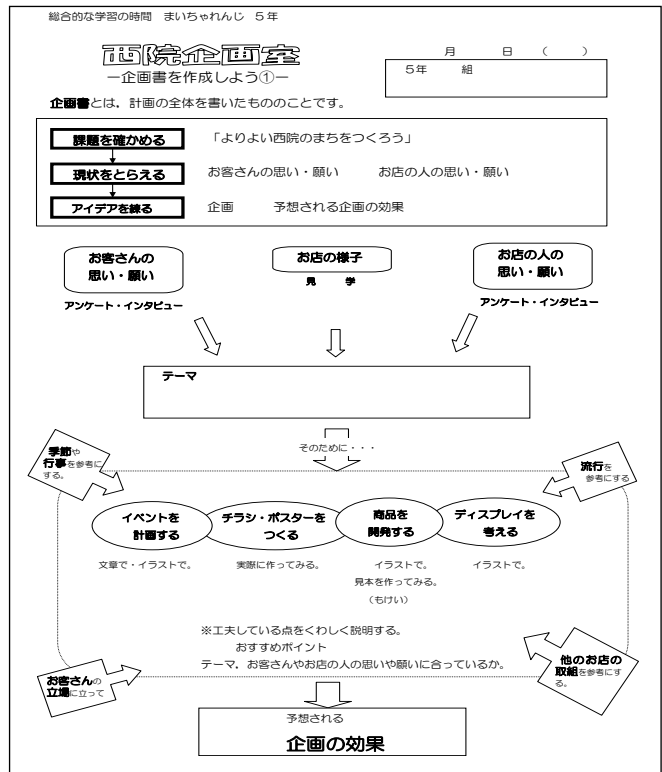


③企画書のテーマを考える(分析)

「店のよさ・課題」「客の意識」「店の人の思い・願い」を上手く関連させてテーマを設定していた。

子どもが考えた企画の内容

・商品開発 ・ポスター ・ポップ ・レシピ集 ・ポイントカード など



④企画審査会を開く(検討)

互いの企画を聞き合い、アドバイスする「企画審査会」を開いた。

出されたアドバイス

商品開発をするなら、商品のイメージ図をかくとわかりやすい。

ポスターの字をもっと目立たせた方がいいです。

説明するときには、「～的な」とか「～感じで」ではなく、もっとはっきり言い切る方がいいと思います。



企画審査会の感想

友だちのアドバイスを基に企画を練り直せてよかった。

お店の人の立場に立ってアドバイスしていたら、自分たちの企画についても見直すヒントが見つかった。

✦これまで話合いの場面では、相手の考えに賛成する意見が多く、間違いを指摘する意見が出にくかった。しかし、審査会を開いたことで、アドバイスをすることは相手を大切にすることにつながることに気付き、批判的に考えることの大切さを実感した。

⑤企画書を持って店を訪問する(プレゼンテーション)



事前に企画審査会を開いていたので、自信をもって説明することができた。一度で通った企画もあれば、店の人からの要望を受けて更に練り直した企画もあった。数日後には、どの店においても子どもたちが持ち込んだ最終企画を実行していただいた。



4 単元「12歳の自分」(第6学年) 福祉 10月～12月 全26時間

- 「12歳の自分にできることは何だろう」を学習課題とし、校内や学区の中で自分がいま、何ができるかを考え行動することを通して、社会の一員としての自覚をもったり、自分の生き方を考えたりする単元 ●

■ 評価の手順 ■□■

「12歳の自分」の単元を基に、評価の手順を紹介します。

1 「単元で育てようとする資質や能力及び態度」を設定する

【学習方法に関すること】

- ア 今までの学校生活の中から課題を発見し、設定する。
- イ 方法を選択し、情報を収集する。
- ウ 課題解決を目指して事象を比較したり関連付けたりして考える。
- エ 相手や目的に応じて効果的に表現する。

【自分自身に関すること】

- オ 自らの生活の在り方を見直し、実践する。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

- カ 異なる意見や他者の考えを受け入れる。

2 「単元で学ぶ内容」を設定する

- a 最高学年としての自分たちの役割を自覚し、低学年に対して主体的に関わりをもつ。
- b ボランティア精神に基づいて行動を起こし、社会との結びつきを強く意識して行動する。
- c 地域の一員としてよりよい福祉を創造するために、今の自分ができる取組を考え、実行する。

3 単元の評価規準を設定する

「育てようとする資質や能力及び態度」を踏まえて作成した付けたい力の系統表(10ページ, 11ページ)を基に、下の表のように単元の評価規準を作成しました。

評価の観点	学習方法に関すること				自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
	課題設定力	情報収集力	思考力	表現力	活用力	学び合う力
単元の評価規準	①今までの学校生活を振り返り、複数の問題を整理して一つに絞り込み、課題を設定している。(ア・a) ②これまでの課題設定の方法を基に、KJ法的手法を使って課題を設定している。(ア・b) ③これまでの学習計画の立て方を振り返り、「人にやさしい町」にするための学習計画を立てている。(ア・c)	①ボランティアについてのコミュニティーチャータ話をメモをとり整理した上で、情報を収集している。(イ・b) ②課題を解決するために、目的や相手に応じて、方法を選択し、調べている。(イ・a c)	①収集した情報を基に、互いの考えを交流し、多角的にみたり、順序立てたりして、一番よい遊びを考えている。(ウ・a) ②これまでの活動を通して得た情報を分類したり、関連付けたりして何が大切かを考えている。(ウ・b) ③収集した情報を総合して、視点を明らかにして「やさしい町」にするために自分たちができていることを考えている。(ウ・c)	①探究してきたことを基にして、「やさしい町」にするために自分たちができていることを、これまでに身に付けた表現方法を生かして、ポスターに効果的に表している。(エ・b c) ②ポスターを基に、学んだことや自分の考えを、相手を意識して、効果的に発表している。(エ・b c)	①高齢者、障害のある人、小さな子どもについて、既知の知識と追究活動を通して学んだ気付きとをつなげて、よりよい町づくりについて考え、社会の一員として自分のできることを考え、実践しようとしている。(オ・b c)	①自分の考えを相手にわかりやすく伝えたり、相手の考えを評価して受け止め自分の考えに生かしたりしている。(カ・a b c)

※評価規準については、単元で育てようとする資質や能力及び態度と内容の全項目が網羅されることが必要です。各観点に即して「1 単元で育てようとする資質や能力及び態度」ア～カ、「2 単元で学ぶ内容」a～cを必要に応じて組み合わせて設定しました。



■ 学習活動と評価の実際 ■□■

a 思考力を行動観察とワークシートを組み合わせる

⑥課題を解決する（整理・分析）の過程

低学年との交流会を開いた後、これまでの活動を振り返って、「だれかのために何かをするとき、大切なのはどのようなことか」について思考する学習活動

【評価規準】

- ・これまでの活動を通して得た情報を分類したり、関連付けたりして何が大切かを考えている。
(話し合いの様子・ワークシート)

A児は、1年生との交流で絵本の読み聞かせを行いました。少し照れながらも、笑顔で、1年生の目の高さに合わせ腰をかがめて話をするなど、相手のことを考えて行動していました。その日の振り返りに、「僕の考えた遊びを喜んでくれてよかった。1年生は笑っていたので楽しそうだった。でも、あまり話せなかったのが、恥ずかしながら堂々と向き合うことが大切だと思った。」と記述しています。また、図書館ボランティアのNさんから話を聞いたときには、時間をかけて準備をしてくれていたことに気付くことができました。そこから、各学年との交流を通して、「真剣にふれあうこと」が大切だと考えました。自分の体験を基に、何が大切かをしっかりと考えることができたということです。



グループワークで考えを交流し、KJ法的な手法を用いて「楽しんでもらう」「相手の意見を聞く」「計画を立てる」ことの大切さにも気付くことができました。このときの振り返りには、「自分と同じような考えが出てきた。経験を理由に話し合えたので分類しやすかった。」と記述しています。こうしたA児の姿から、評価規準に示す子どもの姿を実現していると考えられました。

しかし、A児は、グループワークでは自分の考えを理由を入れながら話でしたが、クラスワークでは残念ながら発言しませんでした。A児の課題は、グループワーク、クラスワークの際に、もう少し主体的に話し合いに参加できるようになることであると考えました。そこで、以後のグループワーク、クラスワークのときに机間指導を行い、発言をうながすなどの支援を行うように心がけました。

b 学び合う力を交流の様子とワークシートで評価する

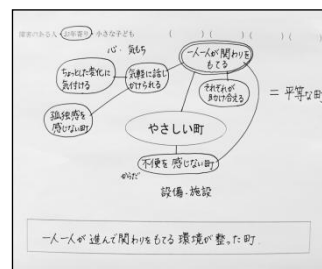
⑥' 課題を解決する（整理・分析）の過程

学習課題「やさしい町にするためには何が大切なのだろう」について交流を通して探した後、『やさしい町』について考えよう』『やさしい町』にするために自分たちにできることは何だろう』について友だちと交流して思考する学習活動。

【評価規準】

- ・自分の考えを相手にわかりやすく伝えたり、相手の考えを評価して受け止め自分の考えに生かしたりしている。
(話し合いの様子・ワークシート)

B児は、はじめ「不便を感じない町」がお年寄りにとっての「やさしい町」だと考えていました。しかし、グループでKJ法的な手法を使って互いの考えを整理するうちに、「気軽に話しかけられる」「孤独を感じない」「一人一人が関わりをもてる」「助け合える」といった町が「やさしい町」なのだ気付きました。このときの話し合いにB児は積極的に参加し、自分の考えを根拠を明らかにして伝えていました。また、記録も引き受け、交流シートにみんなの考えを工夫して記録していました。この時間の振り返りに「体のことばかり考えて気持ちまで考えていなかった。『みんなが助け合って関わりのもてる町』に私たちからしていきたい。」と記述



していました。B児は、友だちと考えを交流することにより、自分では気付いていなかった気持ちの面からも「やさしい町」について考え、自分なりに「やさしい町」について定義し直すことができたのです。そして、そのような町にするために、自分ができることについて、ワークシートに次のように記述しました。

自分から物事を進めていくという行動力が重要になってくると思います。公の場での活動が多く挙げられているけれど、今すぐ始められる簡単なことは「あいさつ」だと思います。もちろん、サークルなどの活動や交流も大切だと思うけれど、そのような活動の基となっているのは、「あいさつ」などの身近なコミュニケーションです。あいさつを徹底した後、交流などの計画を進めていくと自然な笑顔で効率よく進めていけるかなあとと思います。ボランティアは気持ちも大切な一つだから、する側の気持ちも考えて、急な交流は大変かもしれないし、身近なところからハードルを上げていった方が相手に喜んでもらえると思います。

この文章から、友だちの考えを全て受け入れるのではなく、しっかりと評価し、自分が納得のいくところは受け入れるというB児の姿勢がうかがえます。このことから、評価規準に示す子どもの姿を実現していると考えられます。

c 表現力を制作物（ポスター）と発表の様子で評価する

⑦調査したことを報告する（まとめ・表現）の過程

「自分たちの学びを伝えよう」と、ポスターセッションで表現する学習活動

【評価規準】

- ・探究してきたことを基にして、『やさしい町』にするために自分たちができることを、これまでに身に付けた表現方法を生かして、ポスターに効果的に表している。
- ・ポスターを基に、学んだことや自分の考えを、相手を意識して、効果的に発表している。

（発表の様子・ポスター）

C児は、「小さな子ども」グループで、幼稚園児との交流を通して小さな子どもについての理解を深め、小さな子どもにとって校区はやさしい町なのかについて調査し、改善点をポスターで提案しました。このグループの「やさしい町」の定義は、「危険・困難がない町（子どもが安心・安全に楽しく暮らす町）」です。そこで、校区を歩き、子どもにとって危険な場所、困難な場所、工夫している場所を調査して地図に表すと同時に写真も対応させ、「子どもたちの身近な危険や困難をなくすためには」と題して示しました。表現の工夫、論の展開、どれをとっても優れており、今までに身に付けた表現の方法を生かして効果的にポスターを仕上げていました。



中でもC児はこのグループの中心となり、効果的に表現するためにいろいろなアイデアを提案していました。また、発表もわかりやすく、発表原稿を丸覚えするのではなく、聞き手に応じて話し方を変えるなど、相手意識をもった発表ができていました。こうした姿から、C児は評価規準に示す子どもの姿を十分に実現していると考えられます。

以上、評価の実際の方法について述べてきました。評価の観点、付けたい力を具体化し、それを基に単元の評価規準を設定することで、評価はしやすくなります。また、毎時間、全ての子どもの姿をもれなく見取ることは難しいですが、ワークシートやポスターなどの制作物やポートフォリオによっても見取ることができます。変容をみたり、個に応じて前の単元で課題のあった力を重点的にみたりすることもできます。評価をすることで、子ども一人一人の力を把握し指導に生かすことが重要です。